

令和6年度

「いじめを考える授業」

R6.10.30（火）、新たな取組として、縦割りグループを活用した小集団での「いじめを考える授業」を行いました。

※縦割りグループとは、1年生から6年生までの児童が混在する小集団です。上尾小では特別活動の一環で行われる「グデイ（グッドデイ〔Good Day〕が語源）」の活動の時間に実施しました。



グデイのグループごとに各教室に集合し、担当の先生から、この時間の流れについて説明を聞きます。その後、グループ毎に6年生が中心となって話し合いを進めました。

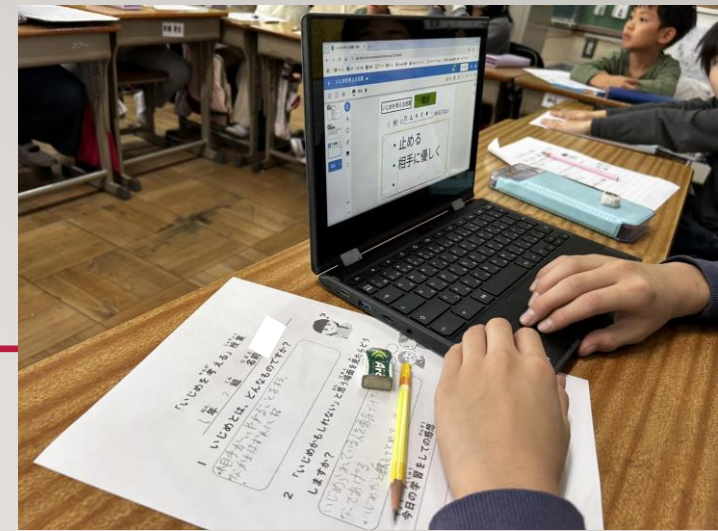
はじめに、どのようなことが「いじめ」なのだろう？という問いに対して「NHK for School」を視聴し、その後、1年生から6年生の児童がそれぞれ「いじめ」について考え、自由に意見を発表し合いました。そしてその後、「いじめ」の定義を確認し合いました。

【いじめとは】

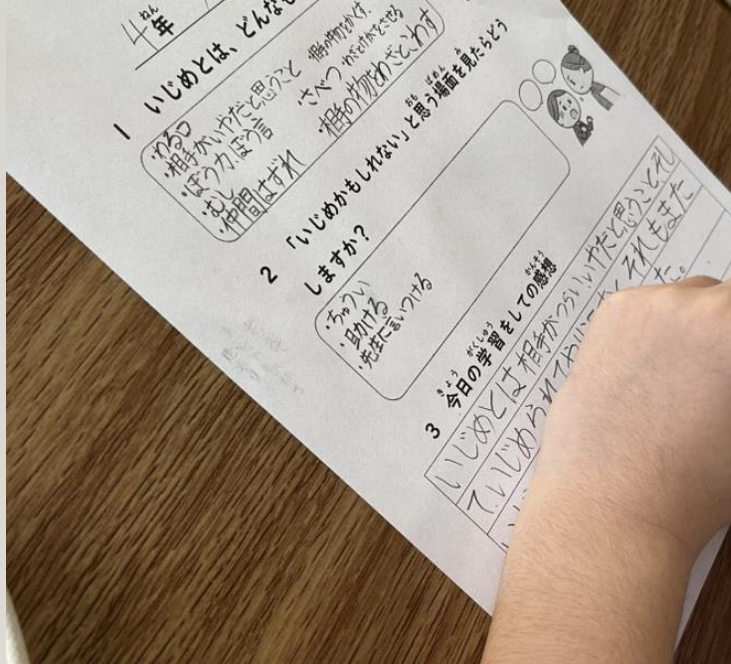
- ①いじめをした人といじめられた人がどちらも児童であること
- ②いじめをした人といじめられた人同士が関わり合う環境にいること
- ③心理的な苦痛を与える行為（心）や物理的な影響を与える行為をしたこと（体）
- ④相手が心身の苦痛を感じていること



6年生が下の学年に声をかけながら、話を上手にリードしてくれました。



どの学年の児童も、自分なりの考えをもって、話し合いにのぞんでいました。



「いじめかもしれないと思う場面を見たらどうしよう？」
「いじめをとめる方法として何ができるだろうか？」

話し合いを進めながら、一人一人が自分の意見を持ち、ワークシートに記入します。

6年生は話し合いの記録をタブレットに入力。

グループで作る「いじめに関する標語」を考える時には、キーワードとなるような言葉を入力して、グループ内で共有していました。



この時間の最後には、グループ内でつくった「標語」を発表し合い、あらためて「いじめ」について考えることができたようです。

【確認したこと】

- 相手が苦痛を感じていたらそれは「いじめ」であること
- いじめを止める方法はいろいろとあること
 - ・直接とめる
 - ・友達ととめる
 - ・大人に相談する
- いじめられている人に寄り添うことが大切であること
- みんなで「いじめ」は許さないという気持ちで行動すると「いじめ」が起きにくい雰囲気生まれることなど

今回の取組「いじめを考える授業」は、縦割りグループを活用しての授業として、はじめての実践でした。学級単位の授業をとは一味違った雰囲気の中での学習となったようです。今後も工夫を加えて実践し、「いじめ」を防ごうとする気持ちを育てていきます。